

## 事例検討の実際

### I.事例検討：グループスーパーヴィジョンとかなりの重なりがある

- 専門的技能を更新（プラスチックアップ・バージョンアップ）することを目的
- 必ずしも「経過事例」「自身の援助事例」を取り扱わない = 事例から「何か」を学ぶ
  - ・援助を選択する際の基準の『照合枠』の点検・更新 = 思考・視点・原則・価値・倫理
  - ・援助者が持っている『抽斗（ひきだし）』の整理・加除

### II.方法

- 1.ヒストリカルスタディー
  - 2.インシデント・スタディー
  - 3.ロールプレイ
  - 4.KJ法
- 何を目標にするか、到達点とするかなどによって選択する

### III.プロセス

- 1.役割確認：事例提供者、司会・進行、記録、スーパーヴァイザー
- 2.事例紹介及び援助の概要
  - ・利用者に関する必要最低限の情報
  - ・事例を検討していく上で必要と思われる情報
  - ・事例提供者として何を討議の課題として取り上げてほしいかを明確化
- 3.事実確認・情報整理
  - ・事実についての質問・確認
  - ・「なぜこうしたのか」などは討議の中で
  - ・事例の全体像、援助内容の概要を把握する
- 4.課題設定
  - ・課題の明確化、合意：事例提供者の取り上げてほしい課題とは異なる場合もあり得る
  - ・司会・進行役、スーパーヴァイザーの重要な役目
- 5.課題の検討
  - ・討議
  - ・ロールプレイ
  - ・疑似カンファレンス
- 6.まとめ
  - ・何が解決できたか
  - ・何が課題として残ったか
  - ・参加者一人一人のまとめ
  - ・事例提供者自身のまとめ
- 7.記録

### IV.事例検討の様式 別紙資料（横山正博（山口県立大学）ソーシャルワーカーのための事例検討方法論より）

## グループワークとファシリテーター

### I, グループの意義

グループ：構成員が互いに対面的な関係にあり、密接な交流のある集団

#### 1.特性

- 1) メンバーに対する安定感の付与
- 2) 社会的態度および価値観の学習の場
- 3) 社会的行動の単位

#### 2.人間にとってのグループの意味

##### 1) 乳幼児期：

- ① 家族との様々な相互作用を通じて人間としての基礎を形成する家族グループ
  - ② 他者の立場を認め、仲間意識や共同意識を養う幼児グループ
- 2) 児童期：家族と離れ、社会性を形成して行く。グループでの独自文化の形成
  - 3) 青年期：モラトリアム期、心理的依存と自己の安定化
  - 4) 成人期：課題達成を中心とした目的的・人為的グループと自然発生的グループ
  - 5) 高齢期：グループの消滅 — 個人差が顕著

### II, グループの成長・発達・変化要因

#### 1.メンバーのニーズ

#### 2.グループのタイプ

#### 3.目標

#### 4.場所

#### 5.リーダーの影響

#### 6.グループの発達段階

### III, 社会福祉とグループワーク

意図的なグループ経験を通じて、個人の社会的に機能する力を高め、また、個人、集団、地域社会の諸問題により効果的に対処できるよう、人々を援助するもの（G. コノプカ）

### IV, 歴史・発展

1.19世紀～：セツルメント運動 — 学習やレクリエーションの形態をとる集団活動

⇒ 住民意識や行動の変革 ⇒ 地域の問題改善

2.1920年代～：教育思想の影響 — 経験と交流による個人の社会化、社会の改善への寄与

3.1960年代～：治療的処遇への応用 — 病院、矯正教育、収容型社会福祉施設

4.1980年代～：エンパワメントセルフヘルプ活動、市民活動

### V, グループワークの基本原則

#### 1.価値観・倫理観

- 1) 生命・人間の尊重
- 2) 自己決定・民主的な手続きの尊重
- 3) 相互依存・助け合い
- 4) 人間の変化の可能性
- 5) 感情の重視
- 6) 自己覚知
- 7) 秘密保持

#### 2.関係

- 1) ワーカーとメンバー
  - ① 個別化
  - ② 受容・共感

- ③信頼関係形成
- ④制限
- ⑤直面化
- 2) メンバー間
  - ①参加
  - ②相互作用促進
  - ③「今、ここで」
  - ④葛藤解決
- 3.リーダーシップ
  - 1)課題達成機能：問題解決や課題達成を積極的に促進する機能
  - 2)集団維持機能：グループを友好的に支えて行こうとする機能
  - グループが持つ機能であり、グループメンバーがこの機能を『分かち合う』ことが重要
- 4)援助媒体
  - 1)ワーカーとメンバーの対面的関係
  - 2)メンバー間の相互作用
  - 3)プログラム活動
  - 4)社会資源

## VI. グループの成長・発達・変化

### 1.形成期

- 1)共通の目的や目標を見つけだす
- 2)グループの目的を達成するためにさまざまな課題について行動し始める
- 3)自分と他のメンバーの関係を試しながら、グループのなかでの位置を決める
- 4)現在のグループを“このグループ”として、他のグループとは別に存在する1つの総合体であると見始める
- 5)グループのメンバーとしてどのようなことが期待されているのかを自分の中で設定し始める

### 2.葛藤期（嵐の時期）：グループが落ち着いたかに見える直後のまだ“試し”の時期

- 1)お互いの競争や葛藤・敵対
  - 2)リーダー、プログラム展開、協調への抵抗
  - 3)グループの統一性の崩壊 サブグループの出現・サブグループ間の葛藤
- ↑
- ①自己防衛の低下構えた姿勢からより親密な関係への展開
  - ②個人やグループの課題からの開放の始まり
  - ③グループからの強制への嫌悪：時間・エネルギー・自分たち自身
  - ④地位や役割のゆるやかな確立

### 3.規範期（静の時期）：嵐が過ぎた後の静かな時期→葛藤の解決の仕方でさまざまに現れる

- 1)共同の感情の発達
- 2)信頼感・親密感・統一感の増大
- 3)グループ独自の規範の創出
- 4)自らの行動を統制する規制を設定し始める

### 4.再形成期：グループの成長の成果を反映

- 1)葛藤の解決と自己の限界の理解
- 2)メンバー間の相互依存
- 3)自立性の高まり
- 4)新しい強さの発揮

### 5.終結期：分離と個別化

- 1)個々のメンバーの独自のニーズや目標の達成
- 2)抵抗や退行の出現
- 3)新しい課題・ニーズの発見
- 4)終結の体験

## VII, 反グループ行動

- 1.聞かないこと（聞いていないこと）
- 2.話すメンバーをさえぎってしまうこと
- 3.相手やグループの特徴をことさらに平板化してしまうこと
- 4.相手やグループのアラ探しや足りない点をことさらにあげつらうこと
- 5.細かいことにこだわり、まるで編み物の目を拾うような行動をとること
- 6.何から何まで拒否すること
- 7.不適切な冗談を言ったり、痛烈な皮肉を頻繁に述べ、また、ブラックユーモアを語る
- 7.場違いの怒りを示したり、暴言を吐くこと

## VIII, グループへの介入

### 1.共通技術

- 1)対象を設定し、基本枠組みを構想する
  - 2)話し方：話す早さ・声の大きさ、視線
  - 3)傾聴
  - 4)つなぎと相互作用 → 2.(4), (5)
  - 5)集団規範の形成
- ### 2.過程技術
- 1)波長合わせ
  - 2)確認と契約
  - 3)コミュニケーションを高める
  - 4)課題・問題の共通点の確認・相違点の意識化
  - 5)共通する問題の見方や解決策の考察を深める
  - 6)一人一人の問題解決の向けた取り組みを進める
  - 7)特定のメンバーの問題解決が他のメンバーの役に立つことに気づく
  - 8)終結

## IX, グループワーカーとファシリテーター：スーパーバイザーと混同されることが多い

### 1.役割

- 1)相互作用を促進する
- 2)助言や情報を提供し、モデルを示す
- 3)変化を起こさせる

### 2.ファシリテーターとは

グループワークでは司会者、進行役、コーディネーター、グループリーダーなどいろいろいわれ、司会・進行・調整・指摘・教示・まとめなどグループワークのすべてを担わされるイメージがあるが・・・

### 1.機能

- 1)グループの再構成・再規定
- 2)メンバーのコミュニケーションを結びつける
- 3)直接的指示
- 4)忠告・示唆・指示
- 5)資源供給
- 6)モデリング、ロールプレイ、リハーサル、コーチング

この機能から考えると「ファシリテーター」は 1), 2) が中心になるかな。

### 2.場づくり：3つのタイプ

- 1)線路型：参加者がやらされている、窮屈な感じを抱く。ファシリテーターが場を仕切りすぎているように見える。
- 2)放牧型：参加者は自由に活動しているが、その場の目的、方向性が見ええない
- 3)ガードレール型：参加者は闊達に活動している。その場の目的・方向性も明確にされている。

### 3.ファシリテーターの5つの心得：2W3B